

(様式第4号)

## 審議会等付属機関 会議概要

1 審議会名	上田市公文書館運営協議会 (第10回)
2 開催日	令和5年3月14日 (火) 午後2時00分から午後3時30分まで
3 会場	上田市公文書館2階閲覧室
4 出席委員	小平委員、田中委員、相川委員、中村委員 (欠席：児玉委員)
5 市側出席者	池田総務課長、坂口文書法規係長、土屋公文書館長、倉島公文書館主査
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
6 会議概要作成年月日	令和5年3月17日

## 協議事項等

(開会)

1 課長あいさつ

2 議事

(1) 令和4年度事業報告について

- 事務局より、資料に沿って説明
- 意見・質問等：次のとおり

(委員) 所蔵資料は保管スペースが限られ、今後も資料が増加する中で今後の収蔵スペース確保の見通しはどうか。

(事務局) 既設では1、2階にスライド書庫がある。まだ当分は大丈夫と思う。また、ここから2キロメートル離れたところに和子倉庫がある。元々下水処理場であった場所だが収蔵庫として使う。令和5年度には作業所として借りている旧東内保育園も引き払う期限のため、温湿度管理をしっかりとしながら計画的に配架を行いたい。

(委員) エンドレスの仕事であるため、溜まっていく一方であると思う。計画的にやるのが大切。マルチメディア情報センターはどうか。

(事務局) 耐震が基準に合わないなど、公共的な施設としては今後の利用は難しい。最終的には建物と土地か、土地だけの売却になるかというところであるが、機能部分は東庁舎へ機能移転する予定。館長から当分は大丈夫という話があったが、それも踏まえて早めにスペースの確保に努めていかなければと思う。和子処理場のような空く施設も出てくると思うが、今後デジタル化も進んでくるため、紙の量が減ってくると思う。

(委員) 毎年増えていくものなので計画的にお願いしたい。

(委員) 令和4年度来館者数は690人と伸びているが要因は何か。特別展などの影響か。

(事務局) 特別展、企画展で伸びた結果である。通常来館者だけではここまでは伸びない。企画展や講演をすることで来館者は伸びる傾向にある。企画展や講座などは公文書館の周知のためにも、今後も積極的に取り組んでいきたい。

(委員)「公文書館アーカイブ教室」については具体的な構想はあるか。

(事務局) 学校から学習に来てもらう流れを作りたい。地元の方に歴史を知って欲しい。全国の状況を見ると所蔵資料を活用し、学校と連携したテキストづくりや先生方に教材として取り上げてもらう事例がある。上田市では創造館で理科的な学習が出来るが、そんなイメージで郷土の歴史を学べる機会や教材を提供していきたい。例えば丸子に当館があるので、丸子地域の学校との連携を試みたい。

(委員) 子供の頃からアーカイブズに関心を持ってもらうことは良いこと。ぜひ実現して欲しい。公文書館がどんな施設かわかるような子供たち向けのパンフレットを作ってみてはどうか。また、小学校4年から地域のことを勉強する総合学習の時間を設けている。そこで紹介してみてもどうか。

(委員)「私たちの上田市」という冊子も教育委員会で扱っていたと思う。教育委員会を通して先生方と協力してみてもどうか。

(委員) 高校で「歴史総合」というカリキュラムがあったと思う。歴史資料を活用した学びというのは重視している。公文書館を活用して学ぶことはチャンスであると思う。また、歴史資料を大学生の卒業論文の題材に活用してもらっても良いと思う。

## (2) 令和5年度事業計画について

○事務局より、資料に沿って説明

○意見・質問等：次のとおり

(委員) 地域文書については、相談者から寄贈の申出があったら出向いていくのか。また、例えば真田家文書のような貴重な文書が出た場合、博物館などどんなやり取りをしているのか。

(事務局) 家屋取壊し等で声がかかることが多い。申出があれば現地まで見に行く。博物館にも連絡をするが、博物館は収蔵容量が一杯のようである。貴重な地域文書は公文書館でできるだけ受け入れたい。

(委員) 令和3年寄贈のシナノケンシ(株)からの寄贈文書についての経過はどうか。各施設への資料の分散状況はどうか。

(事務局) 工場建替のため絹糸紡績資料館が閉館することから、上田市では寄贈を受けた。窓口は生涯学習・文化財課であった。書籍類は信州大学繊維学部図書館へ寄贈となったようである。丸子郷土博物館では絹糸等の加工状況の現物を受領し展示している。公文書館では県とのやり取りの文書綴や写真パネルを主に受領した。美術館では胸像を受領した。社訓や日誌関係はシナノケンシ(株)がそのまま会社で今後も保管していくようである。

(委員) 地域文書の保存事業に関しては、この地域に欠かすことの出来ない資料を系統的に収集し保存する体制を取って欲しいと考えている。例えば「蚕都上田」に関連し養蚕関係の資料に特化して系統的に集めるのはどうか。農民美術、時報、自由大学のことなど、上田市文書館に行けばその分野の資料は全て揃うような方向性を定めて欲しいと思う。

(事務局) 特に系統だってこれを集めるということは定めていない。中には養蚕関係の資料を処分してしまう前に寄贈してもらえたケースがあった。

(委員) この地域にしかなくて、全国に大きな影響を与えていった関係の資料が公文書館にあるとこの館の特徴も浮かび上がってくると思う。

(事務局) 生涯学習との住み分けをどういうふうに捉えるかという部分で、まだしっかり住み分けが出来ていないと思うので、そこをしっかりと整理してからなのかと思う。いずれにしても一箇所にまとまっていた方がわかりやすいし利用も保管もしやすいと思う。

(委員) 自由大学のことでいうと資料集めの際は、最初に図書館でほとんどの資料を集め、次は長野大学の図書館で資料を集めた。博物館には資料が無いと思う。まだまだ分散していると思うのでネットワークを作ると良いと思う。

(事務局) 郷土博物館の倉庫には当時の蚕糸関連の資料がさまざまあるが、本来は蚕都の関係で学芸員が常駐し整理・研究すべきなのかもしれない。起業家が村長や国会議員を務めたりしたので、公文書も色々残っている。せっかく博物館があるのでもったいないという気もする。

(委員) シナノケンシ(株)があったり、信州大学繊維学部などがあったりすることから、色々なものを一つに集約するのも難しいかもしれない。鐘紡跡地の食堂棟はどうなっているか。耐震機能はあるか。

(事務局) 耐震機能は無いようである。

(委員) 最後に、今回の議題であった令和4年度報告と令和5年度計画について、全体で意見や質問はあるか。無いようならこれで会を閉じたいと思う。

(委員) 特に無し。

(委員) それではこれで会を閉じたいと思う。議論感謝する。

### 3 その他

- 事務連絡

(閉会)

### 4 公文書館内見学

- 会議終了後、事務局の案内で館内の見学を実施（30分程度）
- 見学終了後解散